

2021年9月15日
日本銀行横浜支店

神奈川県金融経済概況（2021年9月）

I. 概況

神奈川県の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から厳しい状態にあるが、基調としては持ち直している。

輸出は持ち直している。設備投資は、先行きに対する慎重な見方は残るものの、持ち直している。雇用・所得環境は弱い動きとなっている。個人消費は、サービス消費を中心に下押し圧力が強く、足踏み状態となっている。住宅投資は持ち直しの動きがみられている。公共投資は横ばい圏内の動きとなっている。こうした中、生産は持ち直しのペースが鈍化している。

金融面をみると、貸出は、前年に大幅に増加した反動から前年比プラス幅は縮小しているものの、高水準で推移している。預金は、引き続き増加している。

II. 実体経済

(1) 輸出： 持ち直している。

- ・ 中国向け半導体等製造装置、非鉄金属などが増加しており、持ち直している。

(2) 生産： 持ち直しのペースが鈍化している。

- ・ 素材関連は、持ち直している。
- ・ 輸送機械は、供給制約がみられており、持ち直しのペースが鈍化している。
- ・ はん用・生産用・業務用機械は、持ち直している。
- ・ 電気機械は、振れを伴いつつ、増加している。

(3) 設備投資： 先行きに対する慎重な見方は残るものの、持ち直している。

- ・ 21/6月短観における設備投資の20年度実績は、競争力強化に向けた研究開発、インフラ、物流関連投資などがみられるものの、前年度の大型投資の反動や一部製造業の収益悪化に伴う投資の先送りから、前年度を下回った。21年度計画は、競争力強化に向けた能増投資などから前年度を上回る計画となっている。

(4) 雇用・所得環境： 新型コロナウイルス感染症の影響から、弱い動きとなっている。

- ・ 21/7月の有効求人倍率（就業地別）は、前月から上昇した。21/6月の常用雇用者数は前年並みとなり、名目賃金は前年を下回った。

(5) 個人消費： 新型コロナウイルス感染症の影響から、サービス消費を中心に下押し圧力が強く、足踏み状態となっている。

- ・ 百貨店販売額は、引き続き弱い動きとなっている。
- ・ スーパー、ドラッグストア販売額は、底堅く推移している。
- ・ 家電販売額は、持ち直しの動きが一服している。
- ・ 新車登録台数は、持ち直している。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響から、下押し圧力が強い中、宿泊施設の客室稼働率は、低水準で推移しており、弱い動きが続いている。

(6) 住宅投資： 持ち直しの動きがみられている。

- ・ 21/7月の新設住宅着工戸数は、持家、分譲戸建てが増加したものの、貸家、分譲マンションが減少したことから、全体では前年を下回った。

(7) 公共投資： 横ばい圏内の動きとなっている。

- ・ 21/7月の公共工事請負額は、都道府県、市町村などが増加したものの、独立行政法人等、国が減少したことから、全体では前年を下回った。

Ⅲ. 金融情勢

(1) 貸出 : 前年に大幅に増加した反動から前年比プラス幅は縮小しているものの、高水準で推移している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の貸出をみると、高水準で推移している。個人向けは住宅ローンを中心に増加している。法人向けは運転資金を中心に高水準で推移している（貸出金末残前年比:21/6月+0.4%→7月+0.3%）。
- ・ この間、貸出約定平均金利は、緩やかな低下傾向にある（月末貸出約定平均金利：21/6月 1.036%→7月 1.030%）。

(2) 預金 : 引き続き増加している。

- ・ 県内金融機関（銀行、信金）の実質預金をみると、個人預金および法人預金ともに前年を上回っており、引き続き増加している（実質預金末残前年比:21/6月+4.0%→7月+4.2%）。

以 上

「神奈川県金融経済概況」は、金融経済統計および企業等へのヒアリング調査を踏まえて作成しています。